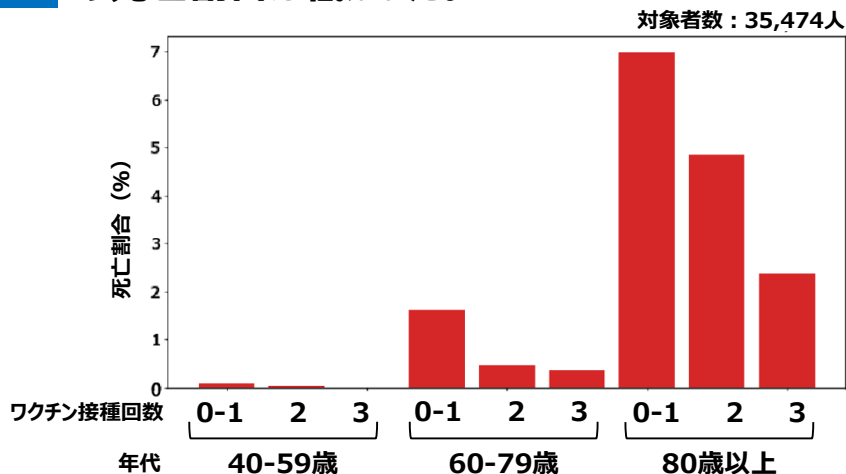


新型コロナワクチン接種の効果について

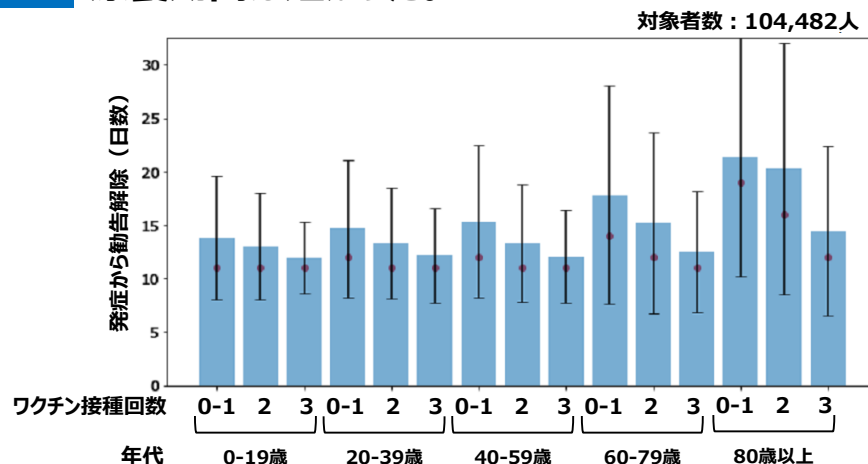
-道立保健所管内の陽性者情報の分析-



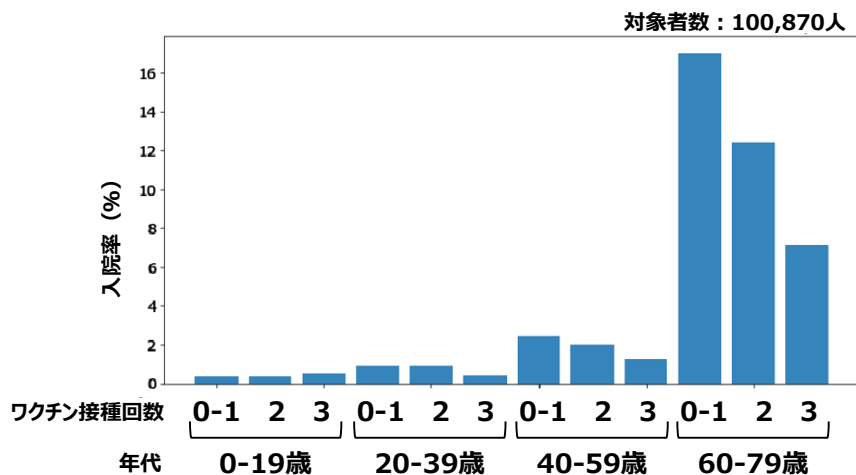
1 ワクチンを接種した方の新型コロナウイルス感染症の死亡割合は低かった。



2 ワクチンを接種した方の新型コロナウイルス感染症の療養期間は短かった。



3 新型コロナウイルス陽性者のうち、ワクチンを接種した方の入院率は低かった。



解説



〔分析対象〕

- 2022年1月から2022年6月までの道立保健所管内の陽性者情報を集計しています。

〔グラフ1〕

- 死亡した陽性者の割合は、ワクチン接種者（2回、3回）で明らかに低く、例えば、「80歳以上」では、「0-1」回接種者の死亡割合は約7%ですが、「3」回接種者では約2%でした。（調査期間中に39歳以下で死亡した陽性者はありません。）

〔グラフ2〕

- 「療養期間の分析」では、発症（無症状の場合は、報告日）から自宅や宿泊療養施設、病院で療養を終えた日までの日数を比較しました。全ての年代で、ワクチン接種者（2回、3回）は、療養期間が短くなっていました。例えば、「60-79」歳では、「0-1」回接種の平均療養日数約18日に比べて「3」回接種では約13日でした。また、3回目接種の効果は年齢が高いほど明らかでした。
- ワクチン接種者（2回、3回）では、棒グラフに示したデータのバラツキ（いわゆる「ひげ」）が狭くなっており、ワクチン接種者に症状悪化が少ないことと一致していました。

〔グラフ3〕

- 「60-79」歳以下の年代では、ワクチン接種者（2回、3回）の入院率が低くなっていました。例えば、「60-79」歳では、「0-1」回接種の入院率は約17%ですが、「3」回接種では約7%と低くなっていました。80歳以上では、悪化のリスクを考えて入院する方が多くなりワクチン接種による入院率の低減は明らかではありませんでしたが、グラフ2のようにワクチン接種者（2回、3回）の療養期間が短縮していました。